

膝の痛み・変形性膝関節症

臨床編 その4



❖はじめに

【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。
下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

もくじ

1 : 肘の痛みを忘れるほど馬鹿っぽい会話.....	5
2 : 左膝の痛みで来院された患者さんの左股関節に大問題 が???	10
3 : 変形性膝関節症を恐れて安静にしているひどくなった 膝の痛み	14
4 : ジョギングや筋トレを何年も続けているのに毎朝脚の 力が入らず動き出すことができない.....	20
5 : 整形外科で腸脛靭帯炎と診断され1か月の間まったく 痛みが取れず...?	24
6 : 整形外科で腸脛靭帯炎と診断され1か月の間まったく 痛みが取れず...? その後	30
7 : 両膝の変形性膝関節症により医師から手術を勧められて いたはずが...?	37
8 : 健康維持のために始めたマラソンで膝の痛み、水泳で 肩の痛みが出ってしまった	41

9 : 腰椎椎間板ヘルニアと膝の水 47

❖ 1 : 肘の痛みを忘れるほど馬鹿っぽい会話

先日、膝の痛みの治療で、整体を行っていた時に 30 代女性患者さんとの間に繰り広げられた、ちょっとした一幕。

日々膝の痛む場所が変わり、どこが一番痛いのがわからないということで、まず、うつ伏せで全体を見ていくことにした。

すると、膝よりもむしろ、背中の中の硬さが強い。

「このままでは、肺の病気、例えば、アレルギーとか風邪を引いてしまいそうですよ！」

と、言うと、

「そういえば、ついこの前風邪を引いていました。」

「あら、もう引いていたんですね！じゃあ、その名残と
いうことですね！」

と言った後に、

「風邪は、どのように治したんですか？」

と聞くと、

「漢方を例の先生に出してもらいました。」

この患者さんは、自宅近所に素晴らしい漢方薬局を見つけ
たようで、ここ1年ちょっと漢方を飲み続けている。

「何の漢方をもらったか覚えてます？」

「ん～！！『小』が頭についていたような・・・？」

「であれば、小青竜湯、小柴胡湯、小建中湯あたりだと思うけど、同じような名前ありました？」

「ん～！！わからないけど、小柴胡湯（しょうさいこうとう）の『さい』ってどういう字？」

「ええ～っと！むらさき（紫）に似ているけど・・・？」

「それ**柴**（しば）でしょ！！先生、そんななんですか？」

「そうなんです。私漢字苦手なんです。日本語難しい！！」

（泣）

「うわあ！！新鮮！！先生にそんな弱点があったなん

て！！漢方がパッパパッパ出てくるのに、柴が出ないって・・・！！**ギャハハハはは！！**」

そんな馬鹿っぽい会話をしている間に、治療時間が終了。

そんな瞬間、

「あっ！！大変、私、左肘も痛かったのに、言うのすっかり忘れてた。」

「ああ、確かに肘は、悪かったですね！！大丈夫ですよ！！馬鹿っぽい話をしながらも、ちゃんとやることはやっているの、確認してもらっていいですか？」

と、膝とともに肘の痛みの確認をしてもらい、改善できていることを確認してもらいました。

この患者さんは、すでに7年も通われている患者さん。

そのため、たくさんの会話をしてくれて、私は、

中学までの馬鹿さ加減が未来を作る

このように、心底バカだということを、いろんな患者さんに話してきていて、この患者さんにも、何度となく話してきたはずなのだが、イメージとは怖いもので、何でも一人で出来るスーパースターのように感じている患者さんが多いみたいですが、

みなさん、

私は、こんななんですからねえ！！（笑）

と、いった所で今日は終了です。

❖ 2 : 左膝の痛みで来院された患者さんの 左股関節に大問題が ???

左の膝が歩いていると痛むという 70 代男性。

杖を突きながらの来院で、話を聞くと、膝が 1 か月前に突然痛くなり、歩くことが困難なため、杖を突くようになったという。

病院で診てもらおうと痛風の可能性ありとのこと。

元々ネフローゼを持っているらしく、その関係で痛風ということが出てきたのだろう。

身体を診ていくと、左の股関節が全く動かない。

なぜ動かないのか？

本人は気付いているのか聞いてみると、何と30年前に、左股関節の大腿骨骨頭壊死を経験しているとのこと。

そして、この股関節に関しては、人工関節を勧められただけで、その後は全く診てもらっていないということだった。

1年前に突然右脚全体が痛くなり、鍼灸院にて治療を受けていたという。

その後、1か月ほど前から左膝が痛くなり、キュアハウスを受診という流れのようだ。

けれど、一番の問題は、左股関節の壊死に対して何もやっていないということ。

自然発生的な壊死であれば、骨盤にも浸食している可能性がある。

しかも、まったく左股関節に関しては痛みも違和感も感じていない。

動かないという現実以外は、特別問題を感じていないとのこと。

動かないということだけでも、かなり異常だが、壊死ということもあり、動けるようにすることで痛みが出てしまう可能性があるため、話し合いの結果、股関節の動きを改善することは、無視して膝の痛みを取ることに専念することになった。

しかし、壊死の問題から、腑に落ちない部分が多すぎるの

で、もう少し突っ込んで聞いてみることにした。

気になるのは、

股関節の圧迫骨折

圧迫骨折により、血行障害が生まれ、壊死したのであれば、骨折部位が落ち着けば、それ以外に問題が出ることも、今現在動かないのも、痛みが出ないことも腑に落ちる。

そこで、過去の状態をいろいろ聞いてみた。

すると・・・？

次回、その驚愕の事実が発覚する。

❖ 3 : 変形性膝関節症を恐れて安静にしているひどくなった膝の痛み

70代 女性

最近、座っているところから急に立ち上がったり、ずっと立っていて体の向きを急に換えようとする、膝が痛くなる。

これは、世間で言われている変形性膝関節症ではないかと恐れ、なるべく歩かないようにしていた。

しかし、痛みはどんどんひどくなるばかりで、何かおかしいと思い来院した。

身体を触ってみると、太ももの筋肉がかなり細くなってい

る。

膝は、太ももからの筋肉とふくらはぎからの筋肉とで、動かすことができる関節である。

そして、この患者さんのふくらはぎの筋肉はしっかりしている。

これは、太ももの筋肉量低下により、痛みが起きているのか？

それとも、歩かないようにしているため、太ももの筋肉量が減っているのか？

もし、前者のように、筋肉量低下により、痛みが始まったのであれば、長年かけて少しずつ低下するもの。

そのため、徐々にではあるが、関節の間隔が狭くなっていく。

すると、骨同士がぶつかる確率が高くなり、ぶつかった面が変形をおこす。

これが、変形性膝関節症である。

また、後者のように歩かないことで筋肉量が減っている場合、さらに二つのケースが考えられる。

①痛みが起こる前までは、しっかり歩いていた場合。

②痛む前もほとんど歩いていないが、痛みと共にさらに歩かなくなった場合。

①の場合は、歩き方や普段の姿勢の問題で、あまり太ももを使っていないため太ももの筋力低下が起きた。

しかし、歩いてはいるので、ふくらはぎの筋肉はしっかりしている。

②の場合は、全体的に運動不足で、全ての筋肉が低下している。

そして、この患者さんは、①のケースに当てはまる。

問題は、着物を着ることと、正座をすることが多いことから、太ももの筋力低下が起こっていた。

着物で歩いていると、大股では歩けないため、太ももよりもふくらはぎの筋肉が鍛えられる。

また、正座では、太ももの前側の筋肉（大腿四頭筋）が伸ばされ続けているため、長時間座りすぎると、筋肉が縮みにくくなる。

筋肉は、伸び縮みさせなければパワーが出ない。

従って、正座などで、膝を曲げていたのであれば、伸ばす必要がある。

そのため、普段から膝をしっかり伸ばすような運動をしていけば問題ないが、運動をしていなければ、自然と筋肉量は低下する。

大腿四頭筋は、本来脚の筋肉で一番強くなくてはいけないのだが、この筋肉が低下することで、脚全体のバランスを崩し痛みを発生していた。

そこで、バランスを整えるような軽い整体を行うことで、
どの動きを行っても痛みが出なくなった。

筋肉や関節は、動かすために作られたものである。

従って、満遍無く動かしていなければ、いずれこの患者さ
んのように痛みが出るものである。

❖ 4 : ジョギングや筋トレを何年も続けているのに毎朝脚の力が入らず動き出すことができない

70代 男性

かなり前から左脚の力が急に抜けるような状態になる。

特に、起床時には、全く動けなくなるため、しばらく寝床から動き出せない状況が続いている。

しかし、動き出せば、何事もなかったように動けるといふ。

さらにこの方、体力の低下防止のため、一日おきにジョギングと軽い筋力トレーニングを、

何年も欠かさずに行っているということである。

まず、うつ伏せで全体のチェックを行うと、明らかに左の臀部から膝にかけての筋力低下が伺える。

それ以外に、目立つ問題はなさそうなので、整体で全体の調整を行いながら、

この左側の筋力低下がどれほど、他の部分に影響を与えているかの確認も行う。

ところが、きっちりとトレーニングしているおかげで、ほとんど他部位への影響は診られない。

ということは、**左側の筋力アップさえしっかり行えば、問題は解決するはず。**

そこで、筋力トレーニングを一つだけ教え、終了とした。

そして、3週間後再び来院。

全体をチェックすると、ほぼ筋力差がなくなっている。

しかも、症状は全くなくなったというのである。

教えたトレーニングはただ一つ、足を後ろ側へ振り上げるだけ。

1日10回を3セット行っていたらしい。

年齢的に運動を続けるのは難しく、言われたことを続けることも難しい。

しかしこの方は、どちらも日常のようにこなすことができた。

これは、自分の体を強くする上で普通のことではあるが、なかなかできないことである。

ただ、実行すれば、成果は必ず出るという、いい症例であった。

❖ 5：整形外科で腸脛靭帯炎と診断され1か月の間まったく痛みが取れず…？

30代 女性

1か月前に、左の腰骨（腸骨）の所が痛くなり、整形外科を受診。

診断の結果、腸脛靭帯炎と診断され、「脚の組み過ぎでしょう。」と、言われたらしい。

そして、炎症を抑える軟膏をもらい、毎日患部に塗るよう指示された。

さらに、「膝をあまり曲げ伸ばしすると、痛みがひどくなってしまうので、なるべく曲げないようにしてください。」と

も、言われたらしい。

私は、この話を聞いている間、頭の中が「???'という
感じになっていた。

なぜなら、腸脛靭帯炎が脚の組み過ぎでなるわけがないか
らである。

相当無理な組み方（例えばヨガのポーズなど）で、痛めて
しまったのであれば、本人に自覚があるはず。

しかし、この患者さんは、全く原因が分からないとのこと。

さらに、スポーツ経験はゼロ。

転んでも、ぶつけてもいないという。

しかも、1ヶ月経っても、痛みが引いていないのである。

まず、私は、腰骨が痛いという情報以外は、全て頭から消し去り、全身のチェックを行った。

しかし、あまり目立った原因になりそうなものは発見できない。

そして、身体にむくみ（疲労）もない。

こういうときは、整体を行うに限る。

痛みが出たら、すぐに伝えてもらうようお願いした上で、慎重に整体を始めた。

すると、骨盤の中の筋肉が異常に固まっていることが分か

り、それをほぐしながら、さらに原因を探し続ける。

その中で、唯一「これか？」と思ったところが、大腿直筋である。

この筋肉の、上3分の1が、筋力低下を起こしていたのだ。

そのため、押圧（筋肉へ直角に、指圧を行い、筋肉が反発するまで待つ方法）を行い、即興で筋肉をつけることにした。

ある程度筋肉のバランスが取れたところで、立ち上がってもらい、痛みが出る動きをしてもらったら、全く痛みが出ない。

ということで、この方は、腸脛靭帯炎ではなく、大腿直筋

の筋力低下から起きた痛みだったことが、判明したのだ。

そこで、今痛みがなくなったのは、あくまでも即興で付けた筋力によるものであって、それほど長くは持たないので、自宅で筋力強化をしてもらうことにした。

すると、「へっ！？整形の先生には、動かすなって言われたんですけど、動かしていいんですか？」

「はい、この痛みは、動かさなければ治りません。先生が言ったことは、それほど、大きく外れていたわけではなく、足を組み続けていれば、常に上側になる方の大腿直筋は、筋力低下を起こしやすいのです。それに、大腿直筋と腸脛靭帯は、近接していますからね。疾患名を間違ったので、その後の処置の仕方も間違ってしまったんでしょうね。」

と、説明し終了とした。

筋力低下や炎症は、レントゲンや MRI では、チェックできない。

そのため、検査結果を重視する、西洋医学にとって、このような疾患は、苦手なものと考えられる。

このような場合は、やはり東洋医学の方が優るところなのだろう。

❖ 6：整形外科で腸脛靭帯炎と診断され1か月の間まったく痛みが取れず…？ その後

先日公開したこちらの記事の続編です。

[整形外科で腸脛靭帯炎と診断され1か月の間まったく痛みが取れず…？](#)

30代 女性

3週間前に、整形外科で腸脛靭帯炎と診断され、1か月経っているにもかかわらず治りが悪いと当院へ来院。

問題は、大腿四頭筋の一つである大腿直筋の筋力低下だっ

たことが判明し、その場で改善できた症例。

施術後、かなり調子が良かったが、最近になり、またつらさが出てきたとのこと。

前回私に言われた運動は、できるだけ毎日行っているが、なぜ痛みがぶり返したのか？と来院。

具体的に、どの辺りにどのような痛みがあるか聞いてみると、それほど痛みは強くないが、気になるとのこと。

そして、場所は、何となくしかわからないと、下腹部辺りを触っている。

この時点で、私の頭の中では、問題解決。

早速、整体に取り掛かり、問題の場所を中心に、ほぐしていく。

そして、終了後立ち上がってもらい、痛い動きをやってくださいという、「整体してもらっている間に、常に先生の手が、つらいところに当たっていて、どんどん楽になっていくのを感じてました。だから大丈夫だと思います。」と言っていた。 (こういう反応も嬉しいものである。)

しかし、問題は、今回の筋肉と前回の筋肉は、似ている役割をしているが、場所は全く違うところにある筋肉という点だ。

従って、運動を追加しなければ、この問題の本当の解決にはならない。

そこで、実際に、この患者さんに、感じてもらうために、仰向けになり、その筋肉を動かしてもらった。

すると、「あっ！本当だ！！全然動かせない。こんなに力がなくなってるんですね！」と、深く理解出来たようだ。

その筋肉とは、大腰筋である。

大腿直筋は、骨盤から膝に伸びている筋肉。

大腰筋は、背骨から股関節に伸びている筋肉で、共に、身体を前に曲げたり、太ももを上にあげたりするための筋肉である。

そのため、筋力低下を起こす時は、同時に発生することも少なくない。

ただし、動きの癖で、どちらかの筋肉しか使わないケースも多いため、一方を鍛えれば済むことが多い。

この方の場合は、元々、大腿直筋主導で動いていたところ、疲労が蓄積し、次第に弱くなってしまった。

そのため、何らかの拍子で痛めてしまい、治りにくくなっていた。

そこを筋力強化することで、改善できていたところ、元々の運動不足に加え、大腰筋を使えていなかったことが合わさり、大腿直筋の強化を始めたことで、大腰筋も動いてしまい、違和感を感じるようになったようだ。(少々、説明が変ですみません。)

従って、大腰筋の筋力強化も加えてもらい、今後の予防に

努めてもらうことにした。

意外とこの患者さんのように、何の原因もなく痛み始めた原因が、筋力低下にあることが多くなってきた。

運動習慣を持たない人たちが、増えてきたことに問題がありそうだが、そう考えると、今後はもっと増えてくるだろう。

意外と、スポーツジムの方向性を変えれば、一大事業へと変換する可能性があるのではないだろうか？

ただ、闇雲に筋力強化するだけでなく、目的に合った強化の仕方をしっかりと、指導できる施設がどんどん増えてきてもらいたいものです。

キュアハウスでは痛みを改善するだけの治療は行っていません。

痛みの原因をつくっている根本を改善するには、生活の中で変化を生む必要があります。

そんな生活改善を指導できるのも、キュアハウスの強みとなっています。

❖ 7 : 両膝の変形性膝関節症により医師から手術を勧められていたはずが・・・？

70代 女性

1年半ほど前から通い始めた女性。

当初の主訴は、足がつるということだった。

その原因は、仕事で正座をしていたことから、両膝の変形性膝関節症になり、なるべく脚を使わない生活を心掛けていたことによる、筋力低下が原因であった。

初めて膝が痛くなったのは、30年前で、それから今まで整形外科へ通い続けていたとのこと。

毎週膝の水を抜かなければならないばかりか、水を抜いても痛みが減るわけでもなく、行くたびに手術を勧められ、嫌気がさしていたところだったらしい。

私が、始めに触った時の一言が、この患者さんの生活を180度変えたと、最近来るたびに言っていただけ。

その言葉は、

「この膝は、動かさないとダメですよ！」

だった。

患者さんは、医師から手術を勧められるほどひどいと言われ、なるべく動かさないように言われ続けていたらしい。

それが、まったく正反対の事を言われ、非常に驚かされていた。

何の根拠もなく言ったのではなく、慎重に膝の関節運動を試み、筋肉と関節の動きを確認した結果の言葉である。

その言葉を聞いてからは、毎日スクワットなどの運動を欠かさず行うようになり、半年後には、ほぼ膝の問題はなくなってしまったのだ。

それからというもの、ひどくなる前に診てもらおうと、定期的にお灸や整体を受けに通うようになった。

そして、今回、

「今回は、何かつらい症状出てますか？」

「それが、全然つらくないんです。強いて挙げれば足が冷えてる程度で、この前も京都の往復をしても、全くつらくならなかったんです。でも、前に、先生から「調子が良すぎるときは要注意ですよ！」と、言われてたので。」

ということでの来院だったらしい。

脈診や腹診からは、内臓の問題も診られず、全身の整体を行っても、筋肉や関節、内臓の反射なども出ておらず、至って健康状態を維持していた。

元々、胃腸が弱く、いろいろとつらい症状を持っていたらしいが、当院へ通うようになり、そのつらさもなくなったとのこと。

非常にうれしい症例であったのでご紹介しました。

❖ 8 :健康維持のために始めたマラソンで 膝の痛み、水泳で肩の痛みが出てしまっ た

30代 男性

健康を維持するために、1年前からマラソンと水泳を始め
る。

それから、マラソンが楽しくなり、今では毎月のように、
大会へ参加するようになった。

しかし、2か月前から、走ると膝が痛くなり、今月に入る
と、クロールで泳ぐと肩が痛くなってしまった。

半月後には、ハーフマラソン、1ヶ月後にはフルマラソン

を走りたく、急遽治してほしいと来院。

まず、うつ伏せで背中全体を診てみると、上半身はしっかりしているのに、下半身は非常にバランスを崩している。

太ももが細く、ふくらはぎは太くなりすぎている。

これは、1年前まで、まったく運動をしてなかったため、筋力低下が著しい太ももが、ほぼそのままの状態になっているためである。

それに引き換え、中学で頑張っていた、サッカーで鍛えた筋肉がほぼ残った状態のふくらはぎを、マラソンで使いすぎ、筋肉が疲労を起こし、むくみでパンパンになっている。

これは、明らかに走り方の問題である。

元々、長距離が苦手で、短距離用の走り方しか知らずに、マラソンを始めた結果、膝に負担をかけてしまったもの。

この辺は、走り方とトレーニング方法を少し改善するように助言する。

肩は、水泳で急に動かし始めたため、今まで動かしていなかった筋肉をいきなり動かしはじめたことが原因。

鍼灸で、膝周りの筋力強化と、腰から下の連動性を高め、肩と腕の連動性も高めるように調整を行った。

ほぼ1回目の施術で、肩に関しては、完全に痛みが取れた。

膝は、スッキリしたが走ると痛み始める恐怖感が残っているとのこと。

この感覚は、しばらく残ってしまうのは仕方ないこと。

なぜなら、太ももの筋肉は、走るための準備をせずに走っているのだから。

しっかり、走り方と筋力バランスの修正が取れば、自然と痛まなくなるものである。

この方のように、健康維持のためにマラソンや水泳、もしくは筋トレを始める人が、最近増えている。

しかし、自分に合った運動を選択できずに、ただがむしゃらに身体を動かしている人の多さに驚かされる。

デスクワークが多くなった昨今、運動不足になるのは当然のこと。

しかし、運動不足に対する運動というのは、サッカーやテニスに必要な筋肉を、サッカー選手やテニスプレーヤーが鍛えるのと同じように、デスクワークに適した運動をデスクワークに適した筋肉をつけるために行う必要があるのだ。

デスクワークは、制止運動が多い。

動いているのは、眼球と指先のみ。

このような運動に適したトレーニングを行う必要があり、一般的なスポーツジムでの筋トレは、このようなトレーニング方法を構築できていないのが現状。

そのために、スポーツジムに通い、健康のために汗を流しているつもりが、あっちが痛くなり、こっちが痛くなったりにしている人が増えているのだ。

健康のために必要な運動は、ラジオ体操、ウォーキング、
軽い水泳。

これだけで十分なのである。

そして、デスクワークに必要な筋肉として、静止しながら
筋肉を鍛える工夫が最も重要なのだ。

❖ 9 : 腰椎椎間板ヘルニアと膝の水

50代 女性

1週間ぐらい前から、両膝に水が溜まり、痛くて動かすのがつらい。

さらに、腰椎椎間板ヘルニアを持っていて、最近は、ずっと両側のお尻が痛い。

整形外科で診てもらおうと、「膝の関節自体には問題ないが、水が溜まっているので抜きましょう。」

と、膝の水を抜かれ、ヒアルロン酸の注射を5回打ちますと言われた。

膝の水を抜いて、少し楽な感じはあるが、根本が治っていない気がして来院。

うつ伏せで背中を診ると、かなり腰が詰まっている。(ヘルニアの特徴)

周りの筋肉をゆるめるように鍼を打ち、しばらく置いておく。

その間に膝の状態を診ると、後ろ側からは水が抜けているようなので、少しだけお灸で調整し、仰向けになってもらう。

すると、膝のお皿の下側に水が少し残っている。

この水を囲うようにしてお灸を行う。(囲い灸)

すると、中からどんどん水が出てきて、範囲が広がっていく。

これは、表面的な水を抜いただけで、一番問題になっているところの修復ができていない証拠。

範囲が広がってもやることは同じ。

地道な作業だが、囲い灸を続けて行おう。

一時間かけ、水の範囲が2割くらいに減った。

すると、半月板が少しづれていることがわかった。

普通であれば、半月板調整を鍼で行うところだが、水を流したばかりのため、銀粒での調整を行う。

これで立ってもらうと、かなり膝に力が入るようになった。

水が溜まった時の囲い灸は、本当に即効性があり重宝する。

院内では、市販されていないお灸を使っているが、一般的には、せんねん灸のソフトを使用することで同じ効果を出すことができる。

近くの薬局で注文するか、下記で購入し、家に置いておくと、いざというとき便利である。

[せんねん灸オフ ソフトきゅう](#)

水が溜まった時だけでなく、捻挫や打撲など、腫れているところはどこでも、腫れている周りを囲って、何度もお灸をしていると、あっという間に腫れが引く。

私は、骨折や脱臼、癌などにも使用することがある。

お灸を持っていると、深夜や日曜祝日など、医療機関がや
っていない時に、自分で応急処置ができ、治療期間を短く
することができる。

使い方はいたって簡単。

シールをはがし、身体に貼り点火すれば、燃え尽きるまで
待てばいい。

熱かったらはがせばいいだけ。

一家に一箱、置いといて損はない。

もっと**健康**になるために

もっと詳しい健康情報をご希望の場合には、下記から、
全102ページ、販売価格1,980円

あなたの症状が治らない9つの理由

というレポートを**無料でプレゼント**させていただいています。
このレポートを請求していただいた方は、健康に関する情報が、ご登録のメールアドレスに、毎日届くようになります。
このレポートとメルマガだけでも、十分にあなたの症状を改善するヒントを得られるような内容になっています。
こちらから無料で請求できますので、積極的にこの機会を利用してみてください。

レポート請求はこちらをクリック



QRコードからも請求できます。



作者：キュアハウス鍼灸治療院 院長 中村幸生

メールアドレス：info@curehouse.jp

★共に健康になり幸せな人生を歩むための学びをしていきませんか？：「キュアハウスの健康幸生塾」

<http://curehouse.jp/blog/kouseijuku/>

★どの健康情報とも全く違う視点であなたの症状を取り除く教材がそろっている：「キュアハウス健康情報館」

<http://curehouse.biz/>

★原因不明の症状を徹底的に解明し改善法を手に入れることができるブログ：「原因不明の痛みや病気を改善するたった3つの秘訣」

<http://blog.livedoor.jp/curehouse/>

★病院や治療院に何度通ってもなかなか治らない症状を専門とする鍼灸整体治療院：「キュアハウス鍼灸治療院」

<http://www.curehouse.jp/>



このレポートは、医療に頼らずに、自分自身で症状の原因を見つけ出し、病院の無駄な待ち時間の間に、自ら症状を改善できるような知識と技術をつかみ取っていただくためのヒントを掲載しています。

このレポートにより、あなたの将来における不安が少しでもなくなれば幸いです。

株式会社キュアハウス
キュアハウス鍼灸治療院
院長 中村幸生